

令和7年(2025年)10月28日

「骨格粗大症」について

令和7年4月、新しい遺伝性疾患(遺伝的不良形質)として「骨格粗大症」が追加されました。骨格粗大症を保因・発症すると、**骨端肥大**、特に**四肢関節肥大**が見られ、**出生時に過大子による難産**を引き起こすこともあります。

保因牛同士で交配しなければ発症牛は産まれません。種雄牛の保因状況を確認し、保因牛同士の交配を避けてください。

● 農林水産省「骨格粗大症の正しい理解と利用について」

<https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/lkatiku/sd-shuchi.pdf>



分娩前母牛の飼養管理について

寒冷ストレスは子牛だけでなく、分娩前の母牛にも影響を与えます。冬季は寒さによって栄養要求量が増えるため、母牛の栄養要求量を充足させると、生まれてくる子牛の日増体量(DG)・呼吸器病発病率が改善したという報告があります。また、分娩前母牛の栄養が不足していると、ワクチンの効果が減弱してしまいます。寒冷対策として、分娩2か月前の母牛の栄養管理を見直してはいかがでしょうか。

